

那須の歴史
再発見!

那須町の 地域文化遺産

vol.5



大日向開拓之碑

今回は、大日向開拓と「大日向開拓之碑」を紹介します。

大日向開拓は、東京都の小笠原諸島、伊豆諸島、鹿児島県奄美大島からの強制疎開者や満州、サイパンからの引揚者、地元入植者などさまざまな背景を持つ方々が入植した場所です。特に、小笠原諸島の硫黄島の元島民らは現在島が自衛隊の基地として使用されているため帰島がなかなか故郷に帰ることができない状態にあります。

昭和20年8月12日、東京都は島嶼からの強制疎開者に対する土地として、国有林16ヘクタールを払下げ、東京都那須農場を設立しました。これが大日向開拓の前身にあたります。このとき東京都から派遣された人物で、後に入植者として開拓を行った栃木県開拓連名初代委員長の森竜雄が

います。

入植は戦後直後から開始され、昭和21年には硫黄島出身者らが入植したといわれています。八丈島からの入植者は、戦中に強制疎開を受けた方々のうち身寄りのない方が塩原町（現那須塩原市）の養育院に疎開し、その後入植しました。

昭和25年ごろからは、奄美大島からも入植がなされました。また昭和22年からは隣接する民有地の国の買収があり、開拓地として割り当てられ、翌23年5月16日には「大日向開拓農業協同組合」を設立し、開拓に動きました。

入植生活は、硫黄島・八丈島の島民らの多くは温暖な地域から寒冷地への移住と不慣れなこともあり、農作業や炊事などあらゆることが共同で実施されました。また、生活資金の確保のため自動車燃料をつくる「ガスマキ工場」が組合の直営で経営されました。教育についても、昭和22年に田代小学校（現田代友愛小学校）に大日向分教場が併設され、昭和27年からは季節託児所が設置されると38年から

は町営の保育所として移管されました。

昭和55年に開拓35周年を記念し建立された「大日向開拓之碑」には「大日向」の呼称の理由として「清水湧き太陽の恵豊かなため大日向と呼ばれてゐたのをそのまま名づけた」とあります。温暖な島から寒冷地へ移住し苦勞を重ねた方々を、太陽は変わらず照らし続けたのです。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎ 74・7007



開拓 35 周年式典の様子

かつこう

9月は「実りの秋」ともいわれ、稲や果物などの自然の恵みを身近に感じる季節です。また、気温の変化も大きく、夏の疲れが出やすい時期でもあります。体調管理に気をつけながら、秋の訪れを楽しみたいものです▼9月の第3日曜日は「敬老の日」です。「敬老の日」が近づくと祖母に連れられて近隣の裏山を探検し、栗を拾ったり、

食べられる野草を教えてもらった、そんな思い出がよみがえります。今思えば、あの楽しかった何気ない時間が、大切な学びの時間でもあったように思います▼「敬老の日」は大切な存在に改めて感謝を伝える日。遠く離れて暮らす人も、近くにいる人も、心の中で思いを馳せるだけでも、きっとその気持ちが届くはずです。忙しい日々の中でも少し立ち止まり、身近な人との時間を大切にしていきたいですね。



◀那須町 LINE 公式
アカウントは
こちらから
追加できます



◀那須町 LINE 公式
アカウント
友達登録後の
流れはこちら



◀各月のできごと
カメラスケッチに
掲載しきれなかった
写真をホームページ
で公開しています

お詫びと訂正

広報那須 8月号表紙、裏表紙において誤りがありました。表紙【目次】那須町と近現代の人々とありますが正しくは**那須町の地域文化遺産**、裏表紙【こんにちは赤ちゃん】田尻月守くんとなっておりますが正しくは**田尻月守ちゃん**です。
お詫びと訂正いたします。

こんにちは

赤ちゃん



令和6年4月生まれ



つきも
田尻 月守ちゃん

つきもちゃんは…

5人兄弟の末っ子！お姉ちゃんお兄ちゃんいつもありがとう♡

令和6年8月生まれ

かなと
深山 奏叶ちゃん

かなとちゃんは…

お姉ちゃんお兄ちゃんに可愛がられています！

※今月号から赤ちゃんの敬称を「ちゃん」に統一しています。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは企画政策課広報広聴係（☎72-6935）まで。



町の世帯と人口

（8月1日現在・住民基本台帳）（）の数字は前月比

・世帯数	10,883 世帯 (+ 24)	出生	7人 (+ 6)
・人口	23,427 人 (- 13)	死亡	25人 (+ 9)
	男 11,690 人 (+ 8)	転入	102人 (+ 25)
	女 11,737 人 (- 21)	転出	99人 (+ 40)
		その他	+2人